CentOSのインストール2

インストール 再起動後

CentOS 6.3-- [実行中] - Oracle VM VirtualBox

> ようこそ ライセンス情報 ユーザーの作成 日付と時刻 Kdump



システムが使用できるようになるまでもう少しステップがあります。セットアップ エージェントは、基本的な設定についてガイドしていきます。右下隅にある"進む" をクリックして、設定を継続します。



戻る(B)

進む(E)

k

進む

- U ×

をクリック

戻る(B)

進む(E)

_ _ ×

GentOS 6.3-- [実行中] - Oracle VM VirtualBox

ようこそ ▶ ライセンス情報 ユーザーの作成 日付と時刻 Kdump

ライセンス情報

CentOS-6 EULA

CentOS-6 comes with no guarantees or warranties of any sorts, either written or implied.

The Distribution is released as GPL. Individual packages in the distribution come with their own licences.

 はい、ライセンス同意書に同意します (Y)
 いいえ、同意しません (Q)

[ライセンスに同 意する]

にチェックして

[進む]をクリック

rootユーザ以外のユーザーを作成する。CentOS 6では一般ユーザーでログインするので、必ず作 成する。実習用は4項目にすべて

library

と入力する [進む]をクリック

CentOS 6.3 [実行中] ·	- Oracle VM VirtualBox						-OX
ようこそ	ユーザー システムでの(管理用達で 推奨します。以下の構築 ユーザー名(U): フルネーム(E): パスワード(P): パスワードの確認(C):	ーの作り はない)普通の作業の を入力し、システムロ library library	戎 Dために、'ユーザ- こ 'ユーザー' を作i	ー'を作成することを 成します。			
	もしも Kerberos や NIS のようなネットワーク認証が必要な場合、"ネットワークロ ダインを使用する" をクリックしてください。 ネットワークロダインを使用する (L) ユーザーを存成している時点でもっと物節 (ホームディレクトリや UIDの指定) が必 要な場合は、「高度な設定 (Advanced) 」ボタンをクリックして下さい。						
	高度な設定 (<u>A</u>)					戻る(<u>B</u>)	し 進む(E)





脆弱すぎる

というメッセージが出るが、 実習用なので使用する

[はい] をクリック

日付と時刻の確認 ネットワーク上の時計と同期する にチェックを入 れてもいいが、実習用なので今回は入れない。 本番環境は入れておいた方がいい場合もある

[進む]をクリック

CentOS 6.3 [実行中] - (Dracle VM VirtualBox		_ O ×
CentOS 6.3 [実行中] - C ようこそ ライセンス情報 ユーザーの作成 ・ 日付と時刻 Kdump	Dracle VM VirtualBox Dracle VM VirtualBox State State	:<ださい。 63時41分27秒 6回開化します(Y) 時を設定する: 時間 時(出): <u>3 ①</u> 分(M): <u>35 ②</u> 秒(M): <u>35 ②</u> 秒(S): 57 ③	
		×	戻る(B) 単む(D)

× Insufficient memory to auto-enable kdump. Use system-config-kdump to configure manually

OK(O)



メッセージが出るが、

[OK]

ボタンをクリック

CentOS 6.3 [実行中]	- Oracle VM VirtualBox	
ようこそ ライセンス情報 ユーザーの作成 日付と時刻 ▶ Kdump	Kdump はカーネルクラッシュダンプのメカニズムです。システムがクラッ 時、Kdump はシステムからそのクラッシュの原因を判定するための重要な キャプチャします。kdump はシステムメモリー内の他では使用できない部	y シュした z 情報在 5分を予約
	しておく必要があることに注意して下さい。	
	 kdump を有効にしますか (E) ? 	
	合計システムメモリー(MB) (<u>1</u>): 100	06
	Kdump x € J - (MB) (<u>K</u>):	
	使用可能システムメモリー(MB) (<u>U</u>): 870	8
	Advanced kdump configuration	
	# Configures where to put the kdump /proc/vmcore files # This file contains a series of commands to perform (in order) w # kernel crash has happened and the kdump kernel has been loa # this file are only applicable to the kdump initramfs, and have n # the root filesystem is mounted and the normal init scripts are # Currently only one dump target and path may be configured a # if the configured dump target fails, the default action will be p # the default action may be configured with the default directiv # configured dump target succedes # Basics commands supported are: # path <path> - Append path to the filesystem device # dumping to. Ignored for raw device dumps. # If unset, will default to /var/crash. C United States States</path>	when a dided. Di lo office: proces it once preforme ve belov which y which y
		戻る(B) 終了(E)

Kdumpを設定する [終了]をクリック、ログイン画面が表示される

起動後のログイン画面 (CentOS 6.3のログイン画面)

ユーザーを選択 : library Enter キーを押す

OSインストール後は基本、この画面から始まる。







インストール 再起動後



ログイン 後の windows ライクな 画面

■ファイヤーウォールの無効化 画面上部のメニューから、 システム>管理>ファイヤーウォール を選択する rootパスワードを聞いてくるので、入力する

無効ボタンをクリックする 適用 をクリック

■SE-LINUXの無効化 /etc/selinux/configを直接編集する # vi /etc/selinux/config SELinuxを有効にする。 SELINUX=enforcing SELinuxを無効にする。 SFLINUX=disabled サーバを再起動すると設定が反映されます。

■ターミナル(端末)の起動 画面上部のメニューから [アプリケーション] ー> [システムツール] ー> [端末] を選択する

ウインドウが開くとそこにコマンドを入力できる。 以下、このウインドウをターミナルと呼ぶ。 左端の[]の中は、今いる場所が表記される(略 している場合あり)

■<一般ユーザーからrootユーザーへの切替 (スイッチユーザー)>

[•••] \$ su△- [Enter] △は半角スペース パスワード: ←パスワード入力 [Enter] (な にも表示されない) library 「・・・】 # ←これでrootユーザーに変更できた

端末内はrootユーザーとしてコマンドを実行でき る。

■<root ユーザーでの端末>] \$ となっている場合は一般ユーザー (\$:ドルマーク)] # となっている場合はrootユーザー <スーパーユーザ>(#:ナンバーサイン)

※スーパーユーザー:インストールなどの際に用いる管理者。WindowsのAdministrator(s)の立場。